

\*\*\*\*\*

## 帰国渡日児童生徒つながる会

\*\*\*\*\*

### 第一章 プロジェクトの概要など

#### 1. プロジェクトの名称、目的など

・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」

・目的

現在、京都府の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような児童生徒たちは、言語や文化が違うということから、他の日本人の児童生徒達とのコミュニケーションが上手いかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。このような児童生徒たちの多くは、一学年に一人、あるいは数名しかいないため、普段お互いに出会う機会を持つことが少ない。そのため、共に出会い、活動を通して、同じような悩みを抱える人を知り、その悩みを分かち合える友達ができること、また、一人一人の個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身がその国の言語や文化を大切にできる場を提供することを目的として、2006年度より e-project を利用し、活動し続けている。

つながる会の活動は、主に長期休みに活動を行っており、それに向けて週一回ミーティングを行っている。つながる会の活動をより多くの人に知ってもらうために、活動日の一ヶ月前にはチラシと申込用紙を作成し、京都市立小学校、中学校については、教育委員会にご協力いただき、一斉送信メールで各学校宛にチラシを送付してもらっている。

また、大学生の生活を体験したいという子どもの声を踏まえ、調理実習室や食堂、体育館などの大学内施設を利用し、活動している。

#### 2. 代表者および構成員

・代表者

坂本歩美 美術領域専攻 3回生

・構成員

山川ゆうり、数学領域専攻、3回生

松本翔太、技術領域専攻、3回生

川島洸、理科領域専攻、3回生

下村桜祺、理科領域専攻、3回生

小栗沙和子、理科領域専攻、3回生

香出海音、発達障害教育専攻、2回生

井戸垣心己、国語領域専攻、2回生

合田悠姫、国語領域専攻、2回生

大野遥菜、国語領域専攻、2回生

辻朱花、国語領域専攻、2回生

天野小春、国語領域専攻、2回生

秋田真利亜、教育学専攻、2回生

阪野心咲、美術領域、2回生

堀尾泰伽、英語領域、1回生

達脇萌、教育学専攻、1回生

山田晋也、社会領域専攻、1回生

佐藤翔梧、社会領域専攻、1回生

是枝己咲子、社会領域専攻、1回生

村古珠乃梨、社会領域専攻、1回生

岩井愛子、社会領域専攻、1回生

谷本実穂、幼児教育専攻、1回生

河合さよ子、言語文化プログラム、M2

#### 3. 助言教員

浜田麻里先生〔国文学科〕

### 第二章 内容や実施経過など

#### 1. 夏の活動について

5・6・7月 活動内容の考案

チラシ作成・印刷・発送

7月下旬 準備、直前ミーティング

8月9日 夏の活動

9:00 学生集合

10:00 子ども集合

10:15～ 自己紹介レクリエーション  
(じゃんけん列車)

10:30～ 勉強会

11：30～ 紙飛行機作り  
12：00～ 昼食（大学の食堂）  
13：30～ レクリエーション  
（紙飛行機カーリング、ドッジボール、鬼ごっこ）  
15：00～ かき氷作り、試食  
15：45～ アンケート記入、写真撮影  
16：00～ 子供解散→片付け、学生反省会  
18：00 学生解散

## 2. 秋の活動について

10月上旬～ 活動内容の考案、準備、  
チラシ作成・印刷・発送  
10月31日 直前ミーティング  
11月5日 秋の活動  
9：00 学生集合  
10：00 子ども集合  
10：15 自己紹介レクリエーション  
（じゃんけん列車）  
10：30～ 調理実習（カレーライス作り）  
12：00～ 昼食  
～13：30 片付け終了  
14：00～ レクリエーション  
（お絵かきゲーム、椅子取りゲーム、ハンカチ落とし）  
15：30～ アンケート記入、写真撮影  
16：00～ 子ども解散→片付け、学生反省会  
18：00 学生解散

## 3. 冬の活動について

11月上旬～ 活動内容の考案、準備、  
チラシ作成・印刷・発送  
12月19日 直前ミーティング  
12月23日 冬の活動  
9：00 学生集合  
10：00 子ども集合  
10：15～ 自己紹介レクリエーション  
（ジェスチャーゲーム）  
10：40～ 勉強会  
12：00～ 昼食  
13：00～ レクリエーション  
（鬼ごっこ、ドッジボール、かくれんぼ）  
14：30～ アンケート記入、写真撮影

15：00～ 子ども解散→片付け、学生反省会  
17：30 学生解散

新型コロナウイルスが5類に移行され、制限も緩和されたので、昼食などの飲食を含む一日を通じた活動の再開が可能となった。また、前年度から引き続き、チラシ発送やSNSでの情報発信などに力を入れた成果の表れとして、参加者数が前年度より倍増したことにより、活動の幅も広がり、子ども同士の交流も多様なものとなった。

## 4. 勉強会

7月6日（木）16：30～18：00

今年度の活動では、学生が外国にルーツをもつ子どもを理解するために、宇治市立南宇治中学校教諭宮崎愛子先生をお招きし、いつも側に居る宮崎先生だからこそ知る、子どもや保護者の方の悩みなどを教えていただいた。

私たち学生にとって、子どもを理解することに難しさを感じていたが、宮崎先生からの貴重なお話を聞き、子どもの接し方、子ども達の悩みなどを知り、活動にも生かすことができた。

## 第三章 結果や成果など

今年度の活動に参加してくれた子ども達は、前年度からの継続の子よりも、初参加の子ども達の方が多かった。これは、前年度からの継続したチラシの発送や、SNSの発信の成果であろう。どのような活動を行っているかを情報発信することで、保護者や学校の関係者の方々にも安心して参加していただけた。そして、活動を見学しに来られた学校の関係者の方から子どもへつながる会の存在が伝わり、活動の参加へとつながった。今後も、情報発信に力を入れ、さらなる幅広い活動を行っていきたい。

また、学校に行けないあるいは、学校で不自由な思いをしている子ども達も、本活動に居場所を見出している様子が見られる。普段、参加児童生徒を学校で気にかけている先生や、付き添いの保護者の方々の方々の安心した様子も見られ、今後も是非参加したいという声が多く寄せられた。

#### 第四章 まとめと反省

今年度は、1、2回生共に活動に興味をもち、意欲的に参加してくれた。子どもの人数だけでなく、スタッフの人数も増えたことで、活動の幅を広げることができた。子どもの参加人数は増加傾向にあるため、今後もスタッフの人員確保に向けて勧誘を行っていく必要がある。また、今までは、中国ルーツの参加者が大半であったが、タイや、香港、ネパールなどルーツが多様化している。様々な背景をもつ子ども達が集まったことで、幅広い交流ができるようになった。

今後の課題は、子ども同士のつながりをつくるというつながる会のテーマを達成できたと感じられる活動を行っていくことである。子ども達一人一人は楽しめているが、子ども同士の関わりがより盛んになるようにするために、グループで一つの目標を達成したり、レクリエーションなどの活動を通して、自然に関わるような工夫を考えていきたい。また、子どもとスタッフの人数が増えたことで、スタッフ間の情報共有の難しさが顕著に表れた。情報が全スタッフへ行き渡らないことは、活動中に何か重大な事態を起こす原因にもなりうるので、引き続き週1回のミーティングへのスタッフの参加を促し、内容を充実させ、活動に向けた準備に十分な時間をかけ、活動を有意義なものにしていきたい。

#### 今後の展望

毎回の活動では保護者の方や教育関係者等、多くの見学者の方々がいらっしゃる状況である。参加者の子ども達はもちろん、見学者の方々にも「活動に来て良かった」と思っただけのような活動を心がけていきたい。

また、参加人数が増えてきたからこそ、レクリエーションのグループ分けを工夫するなどして、子どもが自身と同じように外国にルーツをもつ子ども達と交流し、輪を広げ、つながる会が子ども達にとって居場所となるような存在になりたい。